

# ひとりから

真宗大谷派青少年センター機関紙『ひとりから』  
発行日/2016年3月1日(年4回発行)  
発行所/真宗大谷派(東本願寺)青少年センター  
〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199  
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599  
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp  
発行人/青少年センター長 木越 渉



浄願寺子ども会の様子



## ごども会

青少年センター幹事 大橋 宏雄

寺とは、私に先立って生きていかれた人々の声に耳を傾ける場であると同時に、これから生まれてくる人々の声に耳を傾ける場ではないだろうか。

「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え、連続無窮にして、願わくは休止せざらむんと欲す」  
ごどもたちを前にして思うのは、過去は私の前にあり、未来は私の後ろにあることだ。

正信僞をつたうごどもたちの声が、私への問いかけの声となり、いのちが尊ばれない悲しみと、いのちが育まれない現実を私に突きつける。

ごどもたちを前にして仏さまのことを語るとき、仏さまを忘れてしまっているのは自分だと気づかされる。言葉とは違う感覚で、ごどもたちは仏さまを覚えているのだらう。その感覚に耳を澄ましていたいと思つ。

月に一度のその時間は、私への批判と励ましとなり、私の背中を押している。

### 蓮ちゃん通信 その1

2016年4月26日(火)～27日(水)

## 「ひとりからはじめる子ども会」 講習会を開催します! (金沢)

子ども会開設にむけての悩みをスタッフが共に考え、その実践について体験いただきながら学ぶ講習会を金沢で開催します。「お寺で子ども会をはじめてみたいな」そんな皆様のご参加をお待ちしています!!

【定員20名/4月5日(火)応募締切】

※詳しくは、「真宗」誌 2月号・3月号をご覧ください。

問い合わせ

TEL.075-354-3440 (青少年センター)



# まいごの私

高岡教区

青井 和成



私には小学三年生になる子どもがいま  
す。その子がまだ保育所に通っている頃、  
夜寝るときによく絵本を読んであげまし  
た。古典落語が絵本になったものもお気に  
入りでしたが、もっともとお気に入りの  
ものがありました。『あしたから一年生』  
(東本願寺出版) という絵本です。子ども  
も好きでしたが、読んでいる私も好きにな  
っていった本でした。その本の中で、お爺  
ちゃんがお風呂の中で孫のこうすけ君に向  
かって言った言葉「ごもは、まいごにな  
りながらおおきくなるのさ」が私は非常に  
印象に残っています。迷子が大事なのだな、  
ひとりが大事なのだなって、読んであげな  
がら感じました。

私も子どものころ迷子になったことがあ  
ります。だから迷子になって好んでなるも  
のではないと思います。また小学生の頃、  
無視されたことも一時期あったので、ひと

りぼっちっていつのもさみしくて大嫌いで  
す。だけど自分が成長していくには、迷子  
と感ずることも、ひとりぼっちと感ずるこ  
とも大切なのだとこの絵本を読む度に教え  
てもらいました。迷子やひとりぼっちの途  
中はさみしいですが、それが終わったとき、  
なんともうれしい気持ちになります。それ  
は初めて一人で買い物に行くことができた  
ときや、一人でバスや電車に乗ることがで  
きたときの、なんとも言えない達成感に似  
ているのかもしれない。

仏教は、今から2500年くらい前にお  
釈迦さまによってひろわれました。そのお  
釈迦さまは、私たちが生きている世界は迷  
いの世界であり、その迷いの世界から離れ  
るために仏にならなさいと教えてくださっ  
ています。本来、私たち人間はオギャーと  
産声をあげて生まれさせてもらったときか  
らのちをお返しする時まで、ずっと迷  
いっぱなしであるとお釈迦さまは考えてお  
られます。しかし、なかなかそのことに気  
づかずに生きてしまっているのです。  
迷っている子どもを迷子というわけです  
から、そついつのことからすれば自分は迷子  
だなんて感ずること、そして迷子の中でひ  
とりぼっちだなんて感ずることは大事な気  
づきなのだと言えます。誰かとケンカをし

## 子どもたちと聞く法話

たとき、誰も声をかけてくれなかったとき、  
それはひとりぼっちだということに気づけ  
ただけなのかもしれない。ひとりぼっち  
と感じたときが、お釈迦さまの教えが本当  
だとやっと気づけた瞬間なのでしょう。で  
も、残念なことに友だちと仲直りしたりし  
てしまうと、このお釈迦さまの教えが大事  
だということ忘れてしまうのです。子ど  
もだけがそうなのではなく、大人もそうな  
のです。本当に残念なことです。

そしてもつひとつ、そついつ私たちがた  
めに、お釈迦さまは阿弥陀仏という仏さま  
の存在を教えてくださいました。阿弥陀  
仏は私たちのために「ナムアマミダブツ」と  
いう言葉を届けてくださっています。「あ  
なたはひとりぼっちです」ということを  
伝えるために。そして「そついつあなた  
のことを本当に心配していますよ」というこ  
とを知らせるために。私に聞こえてくる  
ナムアマミダブツという声はある意味、遊園  
地やショッピングセンターで聞こえてくる  
迷子を知らせる案内放送のようなものだ  
と思います。「あなたは今迷子になっていま  
すよ」「あなたのことを本当に心配してい  
る人がいますよ」ということを知らせてく  
ださっているのです。

さみしいなって感じたとき、ひとりぼっ  
ちだなんて感じたとき、ナムアマミダブツ  
という声を聞いて自分はひとりではないのだ、  
自分のことを心配してくださっている存在  
があるのだということ思い出してください  
。また、ナムアマミダブツの声が聞こえな

かったなら、自分でナムアマミダブツと言っ  
てその自分の声を聞いてください。少し  
ほっとできるはずです。少し歩み出せる  
はずです。

ナムアマミダブツ、ナムアマミダブツ、  
ナムアマミダブツ

### 蓮ちゃん通信 その②

## 「ひとりからはじめる子ども会 ゲーム集」動画版公開中!

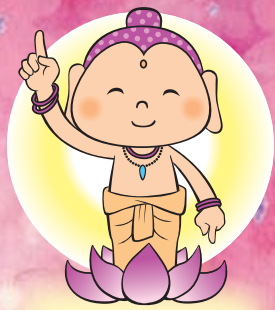
カード式の「ひとりからはじめる子ども会 ゲーム集」の動画版を  
インターネット上に公開しています。司会者ひとりで行うことので  
きるゲームを23種類掲載しています。ぜひご活用ください。

東本願寺 青少幼年センター

検索



※絵本『あしたから1年生』(宮川ひろ 作/福田岩緒 絵)は、現在絶版となっておりますが、しんらん交流館東本願寺文庫「絵本コーナー」でご覧いただけます。



天上天下  
唯我独尊

# 花まつり

ひとりからはじめる  
イベントレシピ



おしゃかさまのたんじょうをおいおいして、  
私たちの「ひとり」の大切さを味わってみませんか？  
今回は「私と出会う」をテーマに絵本を2冊紹介します。



## 「たいせつなこと」

マーガレット・ワイス・ブラウン さく  
レナード・ワイスガード え  
うちだややこ やく  
フレーベル館

ひなぎくにとってたいせつなのは  
しろくあること。  
ゆきにとってたいせつなのは  
いつもかわらずしろいということ。  
そして、あなたにとってたいせつなのは…  
最後のひとことが強く心をうちます。

## 「あなた」

谷川俊太郎 文  
長 新太 絵  
福音館書店

私たちはたくさんの「あなた」との  
関係によって「わたし」となります。  
でも、ずっと「あなた」は「あなた」であり、  
「わたし」は「わたし」…。  
たくさんの人間関係の中で生きている  
子どもたちへ。



お寺で  
絵本を活用して  
みませんか？

問い合わせ  
TEL.075-354-3440  
(青少幼年センター)



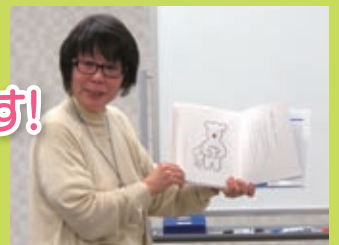
蓮ちゃん通信 その③

2016年4月22日(金)

「絵本ではじめる講習会」を開催します！

【時間】 13:30～ 【会場】 真宗教化センター「しんらん交流館」  
【講師】 前園敦子氏（福岡県子どもの本専門店 エルマー代表）

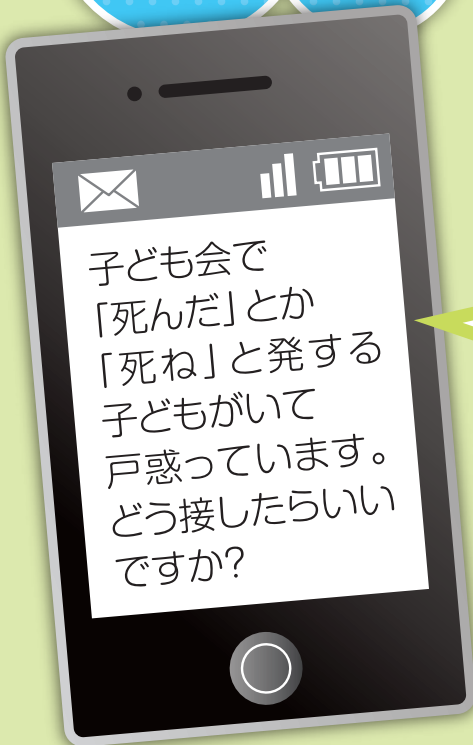
※詳しくは、「真宗」誌 2月号・3月号をご覧ください。



Re:

# サガエさんおしえて

子ども会での悩みや困りごとをサガエさんにお尋ねするコーナーです。



さがえ なつみ  
**佐賀枝 夏文**

1948年生まれ。大谷大学名誉教授。児童福祉施設等での児童指導員、心理判定員を経て、現在は高倉幼稚園長で青少年センター研究員。カウンセラーネーム「サガエさん」です。東本願寺出版より最新刊『すべてが君の足あとだから—人生の道案内—』発売中。



## 思いを語り、聞く時間

どのような文脈で、この言葉がでたのかということも大事ですが、言葉の「矢」を受けた方はつらかったとおもいます。また、その場に居合わせた方々の心中も穏やかではなかったとおもいます。

では、ごいっしょに考えてみましょう。この言葉の意味は、「消えろっ」、「目の前からいなくなれっ」ということを意味します。言葉は、ある場面では大変な「ちから」があります。お互いをやさしく包むこともできますが、また、反対に相手を射殺す武器にもなります。このことをどのように子どもたちと学ぶか、伝えるかはたいせつなことのひとつです。

ご法話として、おはなししてはいかがでしょうか。自利利他の「み教え」を交えておはなししていただくといいとおもいます。相手を傷つけば、自らが傷つくこと、相手に対して慈しむココロで互いが接すると、愛おしい関係が生まれます。そのことをテーマにおはなししていただき、そのあと座談をしてはいかがでしょうか。

暴力では、なにも解決しないこと、言葉の暴力はお互いを傷つけることを学ぶ機会になるといいとおもいます。

座談は、「はじまり」と「おわり」のなかで、思いを語り、聞く時間をもってください。「はじまり」と「おわり」には、時間や場としてココロを解放し、また、守ってくれる役割があります。ある程度、使える時間の目論見を立てて進行してください。

ぜひ、はじめてみてください。

## 子ども会の悩みや困りごとをお寄せください!

これから子ども会をはじめようとする方や、すでに開かれている方のご質問に「Re:サガエさん教えて」のコーナーにてお答えします。

宛先は…[oyc@higashihonganji.or.jp](mailto:oyc@higashihonganji.or.jp)

あなたの  
お寺の子ども会の写真で  
巻頭を飾りませんか?

蓮ちゃん通信 その④

## 子ども会情報募集中!

“お寺につどう子どもたち”の写真や動画など子ども会の内容をお寄せください。

巻頭写真に採用された方には、東本願寺キャラクターグッズをプレゼントします!

宛先は、「郵送」または「E-mail」  
[oyc@higashihonganji.or.jp](mailto:oyc@higashihonganji.or.jp)  
「『ひとりから』子ども会情報係」まで



◎今、「子ども食堂」などの取り組みがクローズアップされています。その活動が支えるのは「生きていていいんだ」と感じられずにいる子どもやその親。お寺での子ども会も、尊ばれるべき「ひとり」として生きていくための勇気をチャージする場所だと考えています。(編集長)

◎昨年末に青年教化教区代表者協議会を開催しました。講師の黒萩昌先生は「我々は教化伝道ということに生涯を尽くすことをもって、ご門徒のご懇志で生きていくことを許された存在」と伝えてくださいました。「手本ではなく見本」とは高光大船師の言葉ですが、「ひとりから」とは「自信教人信」、青少年教化においても見本として私を生きていること、このこと一つなのだあらためて感じます。—両堂の臺の影と春日かな—(青七主幹)

編集後記

